



収穫前でも違いが見えてきた！



「マルチサポート」ってどんな肥料？

規格も上がって、食べても美味しい！

東京支店 神奈川県担当 田中 千絵

神奈川県でブロッコリーの生産は、栄養価の高いことや食生活の変化などにより昭和50年代に急速に栽培が広がり、横浜を中心として生産されています。この度、比較試験を行った地区は、神奈川県横浜市旭区都岡町で、町の北部から隣町にかけては有名なよこはま動物園ズーラシアがあります。

総合微量元素入り苦土肥料の「マルチサポート」を施用して、ブロッコリーに与える影響について確認をしました。

収穫時には見た目ですでに差があった

マルチサポートを長年お使い頂いている生産者の方に試験を依頼しましたが、毎年すべての圃場にマルチサポートを散布されている為、散布しない無施用区を設けて頂く事に少し申し訳ない心境でした。しかし、快く引き受けて下さり肥効試験を実施する事が出来ました。初期生育から収穫作業まで適時調査で同行し、リアルタイムで生産者の声を聞かせていただきました。収穫調査に向くと結果は既に明白で、マルチサポートを施用した区のブロッコリーは見た目が大きくどっしりした表情でした。生産者の方も毎年施用していましたが、ここまで差が出ると思われておらず、今まで施用していて本当に良かった！と喜ばれました。

試験概要

- 品種：“おはよう” ○試験資材：マルチサポート1号
- 施用量：40kg/10a ○施肥時期：9/21 基肥同時
- 収穫時期：12/25 (全層施肥)



図1. 収穫物の比較

同席したプロ農家の方が、マルチサポートで育った方が美味しいと実感！



大きくても旨味があり、濃厚で甘みもあった

収穫したブロッコリーの平均規格サイズは、無施用区でL、マルチサポート区は2Lとなり、可食部（花蕾部）重量比で1.2倍の結果になりました。勝手なイメージで、大きく育つものは食味が悪い印象がありましたが、無施用区とマルチサポート区のブロッコリーを茹でて、JA職員の皆様と食べて比較すると、マルチサポートで育ったブロッコリーは、より味が濃く、より甘みを感じられた為、食味でも違いがあることに驚きました。※その他調査結果は下表を参照ください。

マルチサポート1号について

- ◇荷姿：20kg
- ◇施用量：2～3袋/10a
- ◇施用方法：機械散布OK
- ◇施用時期：基肥が追肥



表1. マルチサポート肥効試験の収量調査結果（表中は平均値を記載）

	草丈 (cm)	莖直径 (cm)	花蕾厚さ (cm)	花蕾重 (kg)	花蕾直径 (cm)	規格
試験区 (マルチサポート施用)	70.7	4.0	11.7	345	14.3	2L
慣行区 (無施用)	75.7	3.7	11.0	289	12.9	L
試/慣比	0.9	1.1	1.1	1.2	1.1	

※注）作物の種類、栽培法、土壌診断に基づいて適切な施肥を心掛けて下さい。

速効性の微量元素で生育をサポート

マルチサポートに含まれる成分はマグネシウムに加え、ホウ素やマンガン、銅や亜鉛などいろいろな微量元素が入っており、土に不足しがちな成分を一度に補給できる為、園芸はもちろん果樹や水稲まで幅広いニーズに対応した肥料となっています。また最大の特徴は、成分のほとんどが「水溶性」で作物の根まで届きやすい「攻めの肥料」であり、初期生育から効果が期待できる肥料です。一般的な微量元素肥料は、「可溶性」が多く、根から出る酸に溶け出す性質で、根が肥料に届くまで時間がかかる「待ちの肥料」です。せっかく施用しても欠乏症を発症する事もある為、注意が必要です。

農作物の1作に必要な量を考えています

微量元素と呼ばれる成分は、作物にわずかな量だけを与える必要があります。多くても少なくとも生育不良となり収量や品質低下を招くことになります。マルチサポートはほとんどの作物に対応し、安心して使える様に成分を調整している為、作物の1作分に使われる成分量となっています。※注）これはとても重要なことで、土に何かの成分を入れすぎて、作物に過剰障害が出ると、その成分を除去する為には、大掛かりな作業を要し、時間もコストも無駄になってしまいます。最悪の場合は、過剰障害が止まらず、作物が正常に育たない土になってしまいます。

様々な作物の栄養補給に！

マルチサポートは肥料三要素のチッソ・リン・カリ以外の不足しがちな成分を補うサプリメント肥料です。作物は選ばず、野菜や果樹など様々な作物に肥料を揃える必要は無く、また好きなタイミングで施用できる為、オールマイティにご使用頂けます。栄養たっぷりの充実野菜づくりを応援します。

